

..... 編集後記 .....

◆ 日本のほかの成層火山と比べると、調査中に山の反対側に移動するとき時間がかかるので、富士山の山体の大きさが実感させられます。今、日本で一番騒がれている火山です。所外の執筆者も含めて、様々な立場から、富士山がとらえられています。

◆ これまで、富士山の火山災害予測図が公表されていなかったという事実から、その問題の複雑さがわかります。富士山ハザードマップ検討委員会委員長によって、その経緯の一部が明らかにされています。まだすべての問題が解決されたわけではないとも書いてあります。

◆ 富士山がなぜあの場所にあるのかということが題名になっている本があるくらい、富士山はそもそも論から謎の多い火山です。富士山級の成層火山はインドネシアにはいくつもあります。そのため、この著者らは、比較研究のためインドネシアと共同で現地火山を調べています。

◆ 地質図幅の調査や、ハザードマップの研究成果により、富士山の火山活動の情報は飛躍的に増えてきました。それらの成果はそれぞれの出版物に反映されますが、ここではその一部をかいつまんで報告してもらいました。どう活動してきたかを知ることは、これからどう活動するのかを予測するための第1段階です。

◆ さらに基本的な富士山の地形測量についても、いろいろと精密なことがわかってきたのは比較的最近のことであることがわかります。日本最高峰の三角点がなぜ一等ではなく二等なのかと不満を御持

ちの方は、本文を御読み下さい、それにしてもあの三角点、不安定ですね。

◆ 富士山麓で地下水が豊富なのは、我々人間が努力をして得られた結果ではありません。自然現象です。しかしながら、良質の地下水を安定して得られるようにするためには、人間の努力が必要になるようになりました。

◆ 騒ぎの元、という悪い言い方になるでしょうか。とにかく、平常時にも観測を続けていたおかげで、低周波地震の大発生がわかったのです。次は将来予測に向けて、もうひと踏ん張りして欲しいものです。

◆ 今回の調査を契機に調べた結果、一般に流布している富士山の体積や重量に関する情報の大部分は孫引きであることがわかりました。研究者が、内部構造を推定して得た結果をご覧ください。

◆ もし、富士山で、山体変動観測機器の異常に気がついた方は、現場に取り付けてあるネームプレートに連絡先が書いてありますので、よろしく願いいたします。

◆ 富士山がどう見られていたか、昔の話と、最近のGIS技術を駆使した話が対照的に載せられています。片や古地図に造詣の深い地形図の専門家、片や地形図教育の第一人者によるものです。遠望する富士は、昔も今も変わりありません。つくば市からも、学園都市創成期には、地上からよく富士を見ることができました。それが今では、

(須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂

副委員長：谷田部信郎

委員：高木哲一・関口春子・中島 隆・  
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
Tel. 029-861-3754  
Fax. 029-861-3569

地質ニュース	第590号	2003年	10月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) ㊦実費		
2003年10月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 ㊦102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2003 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ